

令和7年度 歴史総合＋日本史探究 (02コア・01プラス)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子には問題16ページ、マークによる解答用紙 **マーク**、記述による解答用紙 **記述** 各1枚がセットになっています。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙 **マーク**・**記述** をミシン目で折ってから冊子よりていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
解答用紙 **マーク** の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙 **マーク** はすべてHBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙 **記述** は、HB以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 複数の解答用紙がある場合、使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

例 受験番号が
0637のとき

受験番号				
千位	百位	十位	一位	
0	6	3	7	
0	●	○	○	○
1	○	○	○	○
2	○	○	○	○
3	○	○	●	○
4	○	○	○	○
5	○	○	○	○
6	○	●	○	○
7	○	○	○	●
8	○	○	○	○
9	○	○	○	○

02コア・01プラス

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

I

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	
(1)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(1)
(2)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(2)
(3)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(3)
(4)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(4)
(5)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(5)
(6)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(6)
(7)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(7)
(8)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(8)
(9)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(9)
(10)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(10)
(11)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(11)
(12)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(12)
(13)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(13)
(14)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(14)
(15)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(15)
(16)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(16)
(17)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(17)
(18)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(18)
(19)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(19)
(20)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(20)

II

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	
(1)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(1)
(2)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(2)
(3)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(3)
(4)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(4)
(5)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(5)
(6)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(6)
(7)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(7)
(8)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(8)
(9)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(9)
(10)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(10)

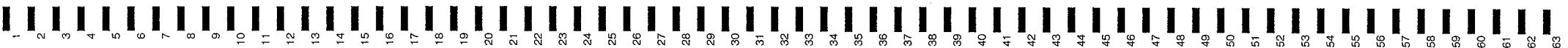
III

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	
(1)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(1)
(2)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(2)
(3)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(3)
(4)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(4)
(5)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(5)
(6)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(6)
(7)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(7)
(8)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(8)
(9)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(9)
(10)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(10)

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

本欄は記入しないこと。	
十位	一位
0	0
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9

CB02J-OMR



総 点	
--------	--

IV

(1)		(6)	
(2)		(7)	
(3)		(8)	
(4)		(9)	
(5)		(10)	

評 点	
--------	--

V

(1)		(6)	
(2)		(7)	
(3)		(8)	
(4)		(9)	
(5)		(10)	

評 点	
--------	--

問題は次のページより始まります。

I 次の文章を読み、〔 〕内の語句から最も適切な語句を1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マ-7〕(20点)

2024年は、いわゆるオリンピックイヤーであった。

前回の夏季オリンピックは記憶にも新しい東京開催で、間隔は異例の3年前である。新型コロナのパンデミックに翻弄された大会。その開会式のプログラムの中に、歌舞伎の演目のひとつ『暫』が組み込まれていた。

この『暫』は江戸時代、元禄年間に初代(1)〔㉠ 坂田藤十郎 ㉡ 竹本義太夫 ㉢ 市川団十郎 ㉣ 芳沢あやめ ㉤ 中村勘三郎〕が演じたのが原型とされ、(2)〔㉠ 日清戦争 ㉡ 日露戦争 ㉢ 戊辰戦争 ㉣ 普仏戦争 ㉤ 米墨戦争〕が講和を迎えた1895年に九代目の(1)が上演した形が現行として踏襲されている。武士や神などの勇壮さが表現された「荒事」を象徴する演目のひとつであり、『暫』も含む代々の(1)が得意とした演目の数々は「十八番」とも呼ばれるようになる。『暫』の主人公は、現在では「鎌倉権五郎景政」という役名が定着している。これは、1083年に発生し、(3)〔㉠ 東漢氏 ㉡ 安倍氏 ㉢ 橘氏 ㉣ 大伴氏 ㉤ 奥州藤原氏〕の台頭につながった、後三年合戦で奮戦したとされる人物に由来する。

「十八番」に含まれる人気演目『助六由縁江戸桜』の主人公「助六」には、「曾我五郎時致」という設定がある。(4)〔㉠ 源頼朝 ㉡ 源頼家 ㉢ 源実朝 ㉣ 源義家 ㉤ 源頼光〕が征夷大將軍に就任した翌年の1193年に発生した「富士野の仇討ち」を果たした曾我兄弟が物語背景に採用されている。

江戸時代当時の仇討ちと言え、1702年にあった「赤穂浪士の討ち入り」が有名であり、これをモデルにした『仮名手本忠臣蔵』は、1748年に人形浄瑠璃として初演され、同年に歌舞伎としても上演された。ただし、事件自体の設定そのままではなく、たとえば、仇の吉良上野介義央に相当する役は「(5)〔㉠ 今川了俊 ㉡ 細川勝元 ㉢ 赤松則村 ㉣ 高師直 ㉤ 山名宗全〕」という名になっている。物語の設定自体が足利尊氏の頃に移され、その臣下で執事として権勢を持ち、観応の擾乱で敗死した(5)が仇役にあてられたのである。

『伽羅先代萩』も、江戸時代当時の事件から題材が取られたケースである。江戸

の大老邸での殺傷沙汰にまで至った一連の事件は、演目タイトル中にある「せんだい」が示唆する藩が発端となり、「(6)〔㊶ 島津 ㊵ 毛利 ㊴ 井伊 ㊳ 伊達 ㊲ 榊原〕騒動」と呼ばれた。初代藩主におさまった政宗から数えて三代目となる藩主・綱宗の放蕩が元々の原因ともされ、その家名が騒動の通称になっているのだが、演目で隠居させられる主君の姓は「足利」である。応仁の乱で西軍の筆頭格となった(7)「〔㊶ 今川了俊 ㊵ 細川勝元 ㊴ 赤松則村 ㊳ 高師直 ㊲ 山名宗全〕」という役名も登場しており、この作品でも足利時代への移動が見られる。

『仮名手本忠臣蔵』や『伽羅先代萩』などのように実際の舞台設定や人物などをそのまま登場させないのは、幕府の規制を避けるためであり、江戸時代の芸能や文芸は、規制とのせめぎ合いでもあった。しばしば、「歌舞伎」の発祥は(8)〔㊶ 日吉 ㊵ 住吉 ㊴ 出雲 ㊳ 諏訪 ㊲ 三嶋〕大社と関わりがあったとされる阿国という女性だったと言われるが、舞台芸能としての規制上、男性役者のみで演じる歌舞伎の形ができていくのである。

ただし、規制の有無に関わらず、そもそも物語をつむぐ上でフィクション要素は多分に含まれるため、歴史上の人物が登場するとしても、必ずしも史実のような役割を果たすわけではない。「吉野川」の場面が有名な『妹背山婦女庭訓』^{いもせやまおんなていきん}は、「乙巳の変」を背景にした演目である。いわゆる「学校で習う歴史」としての主役は中大兄皇子の印象が強く、皇極天皇の前で(9)〔㊶ 物部守屋 ㊵ 蘇我入鹿 ㊴ 蘇我倉山田石川麻呂 ㊳ 蘇我馬子 ㊲ 道鏡〕を討つのも中大兄皇子の手柄。そして、その皇子に付き添った人物が、中臣鎌足とされる。だが、演目では、鎌足と子の藤原(10)〔㊶ 不比等 ㊵ 武智麻呂 ㊴ 房前 ㊳ 宇合 ㊲ 麻呂〕、そしてその周辺の人物たちが(9)を討つストーリーで、皇子自身は活躍しない。そもそも中大兄皇子は皇子でなく、すでに即位した「(11)〔㊶ 斉明 ㊵ 舒明 ㊴ 天智 ㊳ 天武 ㊲ 持統〕天皇」という役で登場しており、(9)も魔物のような力を持つ悪役であるから、史実はあくまでも題材であり、恋愛・人情・伝奇といったドラマ要素を入れた「物語」を作ろうとしているのは明らかである。

歌舞伎のような芝居にはこうした「物語」が必要であり、作者の存在がある。特に17世紀の終盤から18世紀前半にかけて『曾根崎心中』、『冥途の飛脚』、『心中天網島』といった人気作を世に出した(12)〔㊶ 井原西鶴 ㊵ 伊藤仁斎 ㊴ 貝原益

軒 ㊦ 為永春水 ㊦ 近松門左衛門] や、『仮名手本忠臣蔵』や『義経千本桜』の二代目・竹田 (8) などが有名である。『妹背山婦女庭訓』の物語を作った内の一人は竹田 (8) の弟子で、(12) の姓を得て「半二」と名乗った。彼らがこの演目を世に出した当時、大坂の竹本座は勢いを失っており、この「物語」が人気を得たことで竹本座は立て直しができたという逸話もある。

当然のことながら、歌舞伎の上演には劇場が必要であり、現在でも東京の「歌舞伎座」や、京都の「南座」のような専用劇場がある。東京の歌舞伎座は1889年に開場し、共同経営者として (13) [㊦ 植木枝盛 ㊦ 福地源一郎 ㊦ 中江兆民 ㊦ 黒岩涙香 ㊦ 金子堅太郎] の名がある。東京日日新聞の社長を務め、立憲帝政党の立ち上げなどで知られる (13) は、当時の「演劇改良運動」に関わっており、自身も『鏡獅子』など複数の脚本を手掛けた。『小説神髓』で知られる (14) [㊦ 小林多喜二 ㊦ 坪内逍遙 ㊦ 菊池寛 ㊦ 島村抱月 ㊦ 二葉亭四迷]、東京日日新聞で『赤穂浪士』を連載した大佛次郎、『半七捕物帳』の岡本綺堂、そして、『仮面の告白』や『潮騒』の三島由紀夫など、近現代の作家・文学者たちには脚本作者として歌舞伎に関わった人物も多い。

江戸以来の中村座、市村座などが存続している時点で開場した歌舞伎座は、近代的大規模劇場として、九代目 (1)、五代目尾上菊五郎、初代市川左団次ら人気役者たちの活躍舞台となった。この建物は、(15) [㊦ 1918 ㊦ 1919 ㊦ 1920 ㊦ 1921 ㊦ 1922] 年の火災によって焼失し、その2年後には関東大震災によって、再建中の建物がまた火災に見舞われるなど、苦難の時期もありつつ、1925年の正月に歌舞伎座は再度の開場を迎える。その年は、治安維持法と (16) [㊦ 教育令 ㊦ 重要産業統制法 ㊦ 文官任用令 ㊦ 普通選挙法 ㊦ 国民徴用令] とが競るように成立することになる。そして、1945年の東京大空襲という戦火が三度、歌舞伎座を焼く。

GHQの支援を受けつつ、さらなる再建から歌舞伎座開場に至ったのは (17) [㊦ 1949 ㊦ 1950 ㊦ 1951 ㊦ 1952 ㊦ 1953] 年の正月。その月にはアメリカからダレスが来日し、「講和」が具体化していく。結局、この年は、サンフランシスコでの講和会議から平和条約の締結、そして日米安保条約の締結と続き、戦後日本の新しい動きと、歌舞伎座の門出が奇しくも重なった。現在の歌舞伎座は、老朽

化から2010年に閉場し、2013年に再建になったものである。

近代的な劇場という意義を背負った歌舞伎座と異なり、京都の南座は江戸時代以来同じ場所にあり続けるという由緒を守る。元々は「西座」や「北座」もあったのだが、「西座」は寛政年間に焼失、「北座」は1892年の道路整備に伴って閉鎖となり、「南座」だけが残った。いわゆる「桂園」が交互で首相を務める状況から第一次 (18)〔㉠ 山本権兵衛 ㉡ 原敬 ㉢ 清浦奎吾 ㉣ 若槻礼次郎 ㉤ 浜口雄幸〕内閣が発足した1913年の改築で木造のまま規模を拡大する。

その後、世界恐慌に揺れた1929年の間に鉄筋コンクリートへの建て替えがなされた。この年には、前年に発生した張作霖事件の影響から田中義一首相が辞職し、新たに (19)〔㉠ 山本権兵衛 ㉡ 原敬 ㉢ 清浦奎吾 ㉣ 若槻礼次郎 ㉤ 浜口雄幸〕内閣へと変わっている。

戦火を免れた南座は1991年の改修を経て、1996年に建造物として国の登録対象となる。元々は1950年に公布されていた (20)〔㉠ 都市計画法 ㉡ 文化財保護法 ㉢ 新産業都市建設促進法 ㉣ 教育基本法 ㉤ 企業合理化促進法〕が1996年に改正されたためである。ただし、法改正の影響はそれだけでなく、耐震改修促進法の改正に対して基準を満たせなかった南座は2016年に休館し、改修を余儀なくされる。現在の南座は、2018年に改修を終え、京都四条通り沿いにその威容を示している。

Ⅱ 次の文章を読み、〔 〕内の語句から最も適切な語句を1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マーク〕(20点)

さまざまな書物が世に出された江戸時代は、書物文化がおおきく広がった時代として、よく知られている。たとえば、農業技術について書かれた農書。日本最初の体系的農書は『農業全書』といわれるが、そのほかにも『老農夜話』や大蔵永常の(1)〔㉠『広益国産考』 ㉡『節用集』 ㉢『聖教要録』 ㉣『大和本草』 ㉤『発微算法』〕などが書かれ、農業技術の発達や普及に役立った。江戸時代の農業技術の発達としては、脱穀用具であり、「後家倒し」とも呼ばれた(2)〔㉠千石籾 ㉡踏車 ㉢備中鍬 ㉣竜骨車 ㉤千歯扱〕の考案などが挙げられる。

もちろん、文学の面でもさまざまな書物が世に出されたが、時に作者が弾圧されることもあった。たとえば、風刺をきかせた絵入り小説である黄表紙作者の恋川春町は、松平定信が主導した寛政の改革で、風俗を乱したとして処罰された。また、天保の改革時にも、人情本作家の(3)〔㉠井原西鶴 ㉡山東京伝 ㉢上田秋成 ㉣大田南畝 ㉤為永春水〕が罰せられた。

政治・経済・思想に関わる著作も種々出されている。先述の寛政の改革では、『海国兵談』や『三国通覧図説』などを著し、海岸防備の必要性を説いた(4)〔㉠尾藤二洲 ㉡岡田寒泉 ㉢工藤平助 ㉣林子平 ㉤柴野栗山〕も、幕政批判をしたとみなされ、処罰された。中江藤樹に学び、(5)〔㉠前田綱紀 ㉡山鹿素行 ㉢池田光政 ㉣上杉治憲 ㉤鍋島直正〕に招かれた熊沢蕃山は、『大学或問』を書き、武士の帰農や参勤交代の緩和などを主張した。(5)は、閑谷学校を設立するなど、藩政改革を行った人物として著名である。

なお、参勤交代の緩和についていえば、享保の改革期に、(6)〔㉠相对済し令 ㉡旧里帰農令 ㉢上米の制 ㉣足高の制 ㉤服忌令〕を導入する代わりとして、在府期間が半減されたことが著名であろう。ただし、(6)およびその代わりとしての参勤交代の負担削減は、あくまで一時的なもので、のちに廃された。

(7)〔㉠海保青陵 ㉡林信篤 ㉢間部詮房 ㉣荻生徂徠 ㉤荻原重秀〕は柳沢吉保に仕え、5代将軍徳川綱吉にも講義をしたが、後に8代将軍徳川吉宗の

諮問に応じるかたちで『政談』を執筆している。この書は、幕政の問題点や改革案などを論じたものであり、写本などのかたちで、世に流布したようである。徳川吉宗に用いられた人物としてはほかに、『民間省要』を著した(8)〔㊶ 大岡忠相 ㊷ 田中丘隅 ㊸ 室鳩巢 ㊹ 青木昆陽 ㊺ 佐倉惣五郎〕がいる。(8)は、宿駅の名主であった。

国学は、近世後期から幕末にかけて平田国学として、関東や中部地方の農村などにひろく浸透し、政治・社会におおきな影響を及ぼした。さかのぼって考えると、国学の発展に寄与した人物としては、本居宣長がとくに重要であった。彼は「漢意」を批判し、日本古来の精神へ立ち戻ることの必要性などを説いた。宣長の代表的な著作としては、『(9)〔㊶ 日本書紀 ㊷ 古事記 ㊸ 続日本紀 ㊹ 大鏡 ㊺ 増鏡〕伝』が知られている。

一般庶民の初等教育のため、都市や村には、多くの寺子屋が設けられた。寺子屋では出版された教科書などを活用して教育がなされたが、特に女子教育では、(10)〔㊶ 貝原益軒 ㊷ 宮崎安貞 ㊸ 渋川春海 ㊹ 北村季吟 ㊺ 石田梅岩〕の著作をもとにして作られた『女大学』などが用いられた。

Ⅲ 次の文章を読み、〔 〕内の語句から最も適切な語句を1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙~~7-2~~〕(20点)

アメリカ東インド艦隊司令長官の(1)〔㉠ フェートン ㉡ フィルモア ㉢ バジル・ホール ㉣ ビッドル ㉤ モリソン〕が1846年に浦賀に来航した際と違って、ペリーが日本へ来航する際は、琉球王国へ何度も立ち寄った。そして、1854年、ペリーは江戸幕府と日米和親条約・下田条約を締結した直後、琉球王国と琉米修好条約を那覇で締結した。江戸幕府は、琉球側が条約上で清の年号「咸豊」^{かんぽう}を使用することを認めていた。すなわち、この時点で幕府は琉球王国が日本と清の両方に属すること(「両属」)を認めていたことになる。

しかし、明治になって廃藩置県が行われ、琉球王国を支配していた(2)〔㉠ 佐賀藩 ㉡ 対馬藩 ㉢ 松前藩 ㉣ 長州藩 ㉤ 薩摩藩〕が消滅すると、日本政府と琉球王国との関係の整理・再編成が不可欠となった。そのため、1872年に明治政府は、琉球王国を「琉球藩」とし、国王も「琉球藩王」を名乗るよう命じた。

さらに数年後、明治政府は琉球藩に清への朝貢差し止めを命じて清との宗属関係を解消させたうえで、ついに1879年、軍事力をもって琉球藩を廃し、沖縄県を設置した。これを「琉球処分」ないし「廃琉置県」という。藩王の(3)〔㉠ 尚健 ㉡ 尚寧 ㉢ 尚巴志 ㉣ 尚泰 ㉤ 尚豊〕へは東京居住を命じた。琉球士族の中には清に救援してくれるよう請願する「乞師活動」^{きし}を行う者もいたため、清は琉球処分を停止するよう日本へ強く抗議した。

このような日中対立を仲介しようとしたのが、世界周遊中のグラント(前アメリカ大統領)であった。その結果、北京で日清会談が行われ、日本は先島諸島、すなわち(4)〔㉠ 慶良間 ㉡ 沖縄 ㉢ 宮古・八重山 ㉣ 小笠原 ㉤ 奄美〕諸島を清に譲る代わりに、日清修好条規を改定して、日本に最恵国待遇を与えることで合意した。しかし、先島諸島だけでは琉球王国の存続は不可能だと琉球から訴えられた清は、この合意を破棄した。

その間も、中央から派遣されてきた県令による沖縄県政(「大和世」^{ヤマトユウ})が着々に行われるが、当面の方針は旧支配層の反抗をおそれて、旧来の土地・租税制度などを維持するというものであった。これを(5)〔㉠ 人頭税廃止運動 ㉡ 皇民化政策

㊦ 標準語励行運動 ㊧ 土地調査事業 ㊨ 旧慣温存策] という。

また、1882年には第1回県費留学生在が東京へ派遣された。この留学生の中には、のち沖縄倶楽部を結成して参政権獲得運動を展開し、「民権運動の父」と呼ばれるようになった(6)〔㊩ 東恩納寛惇 ㊪ 伊波普猷 ㊫ 謝花昇 ㊬ 奈良原繁 ㊭ 太田朝敷〕もいた。

さて、琉球の帰属問題は、日清戦争での日本の勝利で最終的な決着をみた。すなわち、日清戦争の結果、講和条約である下関条約で清が台湾を日本へ割譲すると、台湾の手前にある琉球の帰属問題は自然消滅することとなった。ちなみに、下関条約には、新たに(7)〔㊮ 北京 ㊯ 重慶 ㊰ 香港 ㊱ 南京 ㊲ 上海〕を開くことも盛り込まれていた。

日清戦争後、ロシアとの戦争をにらんだ軍拡の一環として、沖縄県にも徴兵制が施行された。ただし、(4)では依然として、本土ではすでに廃止された免役の特例措置が認められた。(8)〔㊳ ペスト菌 ㊴ オリザニン ㊵ 赤痢菌 ㊶ タカジアスターゼ ㊷ サルバルサン〕の抽出に成功したことで有名な鈴木梅太郎も(4)に本籍を移した時期があるが、これは徴兵逃れのための可能性がある。

このように沖縄県人の本国への同化政策が進んだからといって、差別がなくなるわけではない。たとえば、典型的な事件として、1903年の人類館事件がある。かつて(9)〔㊸ 内務卿 ㊹ 工部卿 ㊺ 外務卿 ㊻ 大蔵卿 ㊼ 農商務卿〕の大久保利通がはじめた内国勧業博覧会も、この年、第5回目が開催された。その中の「学術人類館」というパビリオンにおいて、沖縄県人がアイヌや中国人・朝鮮人・台湾原住民などと並んで、民族衣装を着て住みながら日常生活を見せるという展示が行われた。この展示に対して、沖縄県では強い抗議の声があがった。

徴兵制の適用という義務とくらべて、参政権という権利の獲得は後回しにされ、衆議院議員選挙法が沖縄県に適用されたのは1912年のことであった(ただし、(4)諸島を含めた完全施行は1919年のことである)。この1912年の衆議院選挙で初めて沖縄県から選出された2人の代議士(高嶺朝教・岸本賀昌)は、ともに(10)〔㊽ 立憲政友会 ㊾ 立憲国民党 ㊿ 自由党 ㊽ 憲政本党 ㊾ 立憲同志会〕に所属した。(10)は同年におきた二個師団増設問題において、政権与党として増設に反対の立場であった。

Ⅳ 次の文章を読み、(1)～(10)の空欄および下線部について、下記の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕(30点)

「日本文化」を代表するものとして誰しも思い浮かべるであろう、「茶の湯」「生け花」や、畳・床の間に代表される「日本間」などの生活文化は、15世紀に源がある。いずれも中国から渡来した文物によって基礎づけられていた。

宋代に流行するようになった「抹茶」は、鎌倉初期に明庵栄西によって日本に紹介された。不透明な黄緑色の抹茶を呑むので、茶器としては、黒っぽい、ないしは茶褐色の地肌をもつ、天目茶碗が用いられた。⁽¹⁾他方で、元代から明代にかけて、中国ではいわゆる「煎茶」が普通になった。透明な茶を呑むので、白い地肌に鮮やかな発色の青や赤などで絵を描く染め付けの陶磁器が流行する。

山城国宇治は鎌倉末期頃から茶の名産地として有名になった。しかし、17世紀までは抹茶の産地であった。宇治の「玉露」は煎茶の飲み方で、18世紀半ばに文献にあらわれる。日本に「煎茶」を伝えたのは宇治万福寺を開いた隠元隆琦だという伝承もある。隠元が17世紀半ばに来日したあと、18世紀半ば過ぎにかけて、中国人の僧侶が万福寺の住職を歴代務めていた。⁽²⁾なんらかの関係があるのかもしれない。

中世の豪族居館の遺跡からは、天目茶碗などの茶器や花器が多く出土する。鎌倉時代から戦国後期まで一貫して同じ組み合わせである。栄西が紹介した「抹茶」が彼らの「好むもの」であった。1976年に韓国新安沖で発見された「新安沈船遺物」⁽³⁾は、1323年に元の慶元（今の寧波）から日本に向かう航海に出て沈没した貿易船の遺物である。その中には当時の中国で流行し始めていた染め付けの陶磁器がない。「日本人の好むもの」を運んでいたらしい。

天目茶碗の最高峰とされる曜（耀）変天目の茶碗は、中国福建省の建窯^{けんよう}で製作されたことが分かっている。にもかかわらず、完全な姿の作品は世界で3点のみ、すべて日本に伝来している。静嘉堂文庫・藤田美術館・大徳寺龍光院のもので、国宝である。器の内・外に虹色・瑠璃色を呈する斑紋があり、「星の輝き」を意味する「曜（耀）」の字が当てられたという。南宋時代に製作されたあと、全く作られなくなった。能阿弥・相阿弥の著作とみられている『君台観左右帳記』⁽⁴⁾に記載があり、16世紀初頭までに類作が日本に来ていた。製作技法は現代の科学・技術でも未解明

で、再現することに誰も成功していない。

鎌倉末期から室町中期にかけて、茶の銘柄をあてる「闘茶」というゲームが盛んに行われた。禅宗寺院では「茶礼」と呼ばれる会式も行われた。後小松天皇の子とされる (5) は臨済宗僧侶のなかの腐敗を鋭く批判して、信奉する者が多かった。村田珠光は (5) に参禅し、禅宗思想を土台として「茶の湯」に精神性をもたせることに努めた。四畳半茶室の創始者ともいう。その思想を継承した千利休（宗易）は茶室の面積を畳二畳敷きにまで縮めた。

中世後期、中国陶磁器は「日本人の好み」とは違う方向に進んでいた。日本国産の焼き物のなかで釉薬（うわぐすり）を用いるほとんど唯一の存在であった瀬戸物が、中国産陶磁器に取って代わる。注文生産や見立てによって茶人が自分の好みを表現することが始まる。村田珠光に先駆けが認められ、千利休（宗易）以後は「利休好み」「織部好み」などの作品が生み出されて、近世の楽焼に至る。

「茶の湯」は「日本間」のしつらい（室礼・家具や飾り付けのこと）とも深い関係があった。足利義政がその御殿の「東山殿」に設けた書斎は、近年の解体修理の際に、かつては囲炉裏が切られていたことが判明した。⁽⁶⁾ 四畳半茶室の源流に位置づけられるようになった。部屋の床の全面に畳を敷き詰め、襖と障子で仕切り、デスクにあたる「付書院」と書棚にあたる「違い棚」を設ける。いわゆる「日本間」の基本的な姿を示す。これらの室礼は禅宗寺院の建築から住宅建築に取り入れられたもので、禅宗の影響が強まった時代の傾向を表している。

狩野派の始祖とされる狩野正信は、相阿弥と協力して「東山殿」を装飾する絵画を制作した。相阿弥は將軍家の中国絵画・美術品「唐物」のコレクションを管理するとともに、「唐物」の価格鑑定も行い、画家としても活動した。(5) の所縁の寺院に1510年に建立された建物に、相阿弥が『山水図』を、正信の子元信はその隣室に並んで描く形で『四季花鳥図』を描いた。⁽⁷⁾ 相阿弥と元信は師弟関係だったのではないかともしう。相阿弥を介して、狩野派は漢画・水墨画と大和絵との融合を果たして独自の体系を構築し、このあと「日本画」の主流になっていった。

後世の画家たちから崇められた (8) は、応仁の乱の直前に遣明船で中国に渡り、帰国後は主に山口の雲谷庵を拠点にして『四季山水図巻』『秋冬山水図』『天橋立図』などを残した。(8) は、中国の画家である李在の山水画を学んだら

しいが、帰国後は「中国にはたいした画家はいなかった」と嘯^{うそぶ}いて、独自の境地を切り開いていった。模倣から独自の境地を探索し始める転機にあったようだ。

当時、日本でもてはやされていた中国の画家は、13世紀後半に南宋の仮首都杭州で活動していた牧谿^{もっけい}である。この画家は明代の中国では好まれなかったという。長江に面した南京から空気の乾燥した北京に首都を遷した明皇帝 (9) からあと、中国人の絵画趣味に変化が生じたのかもしれない。南宋時代の中国絵画には、江南の湿潤な大気に即した雲・霞の表現がある。(10) の『松林図屏風』は、霧の中に浮かび上がる松林の情景を、モノクロームの水墨画で描き出した安土桃山時代の傑作である。(10) は狩野派の最盛期にこれと対抗した名手で、(8) に傾倒していた。

高い水準の文化が近隣民族に広がってゆく時には、受け容れる側が自らの「好むもの」を選んで取り入れてゆくことが知られている。「日本的なるもの」の源は、中国の文物から「好む」ものを見いだして独自のものに育て上げていった、中世日本人の「好み」にあったのだ。

〔設問〕

- (1) 下線部 (1) について、後鳥羽上皇から梅尾の地を授けられて高山寺を開いた華嚴宗の僧侶が榮西から茶の種を譲り受けて栽培させ、梅尾の茶が「本茶」と呼ばれるような名産地になったという。高山寺を開いたこの僧侶は、顕密仏教を改革する立場で法然の教説を批判する『摧邪輪』を著したことでも知られている、この僧侶の名を答えなさい。
- (2) 下線部 (2) については、隠元隆琦が万福寺を開いたことと、宇治が茶の名産地になったことが結びつけられて、このような伝承になったのかもしれない。隠元隆琦がわが国にもたらした禅宗の宗派名を答えなさい。
- (3) 下線部 (3) の「新安沈船遺物」のなかには、京都・博多の寺社名を記した荷札木簡があり、寺社の復興資金を得るために企画された貿易プロジェクトであったと推定されている。京都の寺社としては、鎌倉幕府4代将軍藤原頼経の父九条道家が、円爾弁円を開山として創建した臨済宗寺院の名が記された木簡がある。京都五山のひとつであるこの寺院の名を答えなさい。

- (4) 下線部 (4) の書物は、「唐物」と称せられた中国絵画・工芸品の情報と座敷飾りの知識を記す。15世紀の足利将軍家の美術顧問であった能阿弥・相阿弥の著作だとみられている。将軍の側近くに仕えて、阿弥号を称して、唐物の鑑定・管理や芸能・茶事・作庭などに奉仕した人々の総称を答えなさい。
- (5) (5) にあてはまる人物について、この人物は後小松天皇の子息だが皇位にはつかず、禅宗僧侶の腐敗に警鐘を鳴らし、詩集『狂雲集』などにその思想をとどめた。この僧侶の人物名を答えなさい。
- (6) 下線部 (6) について、義政が「東山殿」に設けた書斎は、いわゆる銀閣とともに池に臨んで建つ建物のなかにある。この義政の書斎の呼称を答えなさい。
- (7) 下線部 (7) について、この寺院は応仁の乱で罹災したあと、 (5) が堺の町衆の資金援助で再興した。この寺院のうち、16世紀初めに近江の大名六角氏の支援で再興された堂は国宝で、その客殿の狩野元信・相阿弥作の襖絵は重要文化財、また、その書院の庭園は枯山水の代表作として国史跡・特別名勝に指定されている。この庭園の呼称を答えなさい。
- (8) (8) にあてはまる人物の名を、答えなさい。
- (9) (9) にあてはまる明の皇帝は、皇帝となる以前に、北京に駐留して元(北元)との戦いにあたっていた。しかし、二代皇帝になった甥を討つクーデターを起こして帝位を奪い、南京から北京に遷都した。ちょうどクーデターの折りに使節を送り込む巡り合わせになった足利義満に対して、「日本国王源道義」宛の国書を授けて冊封する形になった。この明皇帝は誰か、答えなさい。
- (10) (10) について、この人物はちょうど狩野永徳・山楽の活躍していた時期に、狩野派から分れて、独自の立場で活躍して優れた作品を残した。水墨画の『松林図屏風』の他、子息の久蔵と共作した金碧障屏画である『智積院襖絵 楓図・桜図』なども著名である。この人物の名を答えなさい。

V 次の文章を読み、(1)～(10)の空欄および下線部について、下記の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕(30点)

1930年代の日本の歴史は、複雑に展開した。

経済的には、産業構造の大きな転換期であった。化学・電機・機械など新たな産業が急速に発展する一方、農村は、世界恐慌などの影響を受け、生糸の輸出急減⁽¹⁾や米価安による苦境にあえいだ。そうした中、政党だけでなく、陸海軍、政府官僚、財界団体、右翼団体など諸勢力が政治への影響力を行使しようと試みた。このため、大正末期以来の政党内閣の慣行が継続困難となった。政治が不安定化し、内閣の組閣をめぐって、諸勢力のバランスが考慮されるようになった。

明治以来、元老が、内閣総理大臣を推挙してきたが、大正末期以降、元老はただ一人、(2)を残すのみとなっていた。政治が不安定化する中で、1933年には元老を補助するための重臣制度が設けられ、「重臣」と位置づけられた総理大臣経験者、枢密院議長らが総理大臣を推挙した。その際、宮中の大臣職であった(3)が、重臣らの意見を取りまとめる役割を果たすようになり、政治への影響力を強めていった。後の時代になるが、太平洋戦争とその前後の時期に(3)を務めていた木戸幸一は、東条英機の総理大臣指名や大戦末期の和平工作の推進に大きな役割を果たしている。

産業構造の転換の影響を受けながら、諸勢力がそれぞれの利害を追求して躍動することもあった。これに伴う政治の不安定化を象徴する事件の一つが、1934年に起きた「帝人事件」と呼ばれる贈収賄疑惑である。かつて鈴木商店の傘下にあった帝国人造絹絲（以下、帝人）は、同時期、生糸に代わる化学繊維として期待された人絹（レーヨン）を開発・製造する企業として成長しつつあった。しかし、1927年の金融恐慌で鈴木商店が倒産、帝人の株式の過半数は、(4)に引き継がれた。金融恐慌時に、(4)が鈴木商店に大量の資金を貸し付けており、これが不良債権となったためである。1933年、帝人の経営に関わろうとした財界人たちの働きかけを受けて、(4)の持つ帝人株は、財界人たちのグループに払い下げられた。その後、好景気の中で人絹産業が急速に成長したことから、帝人の株価も大きく上昇した。

帝人株の払い下げにあたっては、「番町会」と呼ばれる財界人グループに属するメンバーが主要な役割を果たしていた。これに対し、従来から、「番町会」のような財界活動に対して批判的であったのが、かつて鐘淵紡績の経営者であった武藤山治である。武藤は、「番町会」の活動は閉鎖的であり、政界との不透明な談合によって一部の財界人が私的利益の追求を図っているものと見ていた。そうした背景のもと、1934年初め、武藤山治が経営権を握っていた日刊新聞の『時事新報』は、⁽⁵⁾割安で払い下げられた帝人株の上昇により、「番町会」などの関係者が不当な利益を得たとの疑惑を記事にした。これを契機に、帝人株をめぐる贈収賄疑惑が世間を賑わせることとなり、関係したと見られる財界人、政治家らが非難の的となった。

実際に贈収賄行為が行われた可能性が高いと見て捜査を行った検察は、「帝人事件」の被告として、財界人、政治家、大蔵官僚など多数の者を起訴した。起訴された政治家の中には当時の斎藤実内閣の閣僚であった者も含まれていたことから、内閣への批判も高まった。

斎藤実内閣は、首相が海軍穏健派の出身であり、政党の協力を受けながら、政権を運営していた。また、斎藤実内閣の大蔵大臣は、1934年度予算策定にあたって、⁽⁶⁾昭和恐慌対策のために膨らんでいた公債を漸減するため、各省の要求する予算への査定を厳しくする方針で臨んでいた。このような斎藤実内閣の政権運営に対して批判的な勢力が、帝人株贈収賄疑惑を利用して、倒閣に向けた運動を強力に展開したのである。これを受けて、1934年7月、斎藤実内閣が総辞職をした。

「帝人事件」では、「番町会」グループの財界人などの刑事被告人らに対する暴力的な取り調べが行われた。しかし、裁判では被告人はいずれも罪状を否認、全員の無罪が確定した。このため、斎藤実内閣倒閣などを目的とする政治的な思惑によりねつ造された事件と考えられ、「検察ファッショ」との批判もなされることとなった。

斎藤実内閣の倒閣を目指していた勢力は、複数存在した。司法官僚出身で、国粋主義的な右翼団体を主宰していた平沼騏一郎が、⁽⁷⁾検察の背後で事件拡大による倒閣を画策していたとの噂が一部でささやかれていた。1933年秋頃から、斎藤実内閣の翌年度予算編成案をめぐる陸海軍が反発して閣内対立が生じ、陸海軍の一部有力者の間で平沼騏一郎内閣の成立を目ざす動きが生じていた。もっとも、(2)

が平沼を警戒し、同時期に陸軍内でも平沼騏一郎を支持する勢力が主要ポストを去ったことなどから、この時には平沼騏一郎内閣は成立しなかった。

倒閣を目ざす動きのもう一つの背景として、立憲政友会内部での路線対立がある。政友会主流派で斎藤実内閣の文部大臣を務めていた (8) らが政友会と民政党の政党間連携を進めていたのに対し、当時、非主流派であった久原房之助⁽⁹⁾はこれに反発し、軍部との強力な連携による挙国一致内閣樹立を目ざしていたのである。

斎藤実内閣総辞職を受けて、海軍穏健派の出身であった岡田啓介が内閣総理大臣に任命された。岡田啓介内閣には立憲民政党が協力、これに対して立憲政友会は野党の立場を貫いたが、立憲政友会からも閣僚が選ばれた。そうした内閣の構成により、陸軍の台頭を抑制しつつ、主要政党の有力者を取り込む形で政治体制の安定化が模索された。しかし、これに対して、現状打破をめざす陸軍皇道派、在郷軍人会、右翼団体などの国家主義的勢力が、有力な憲法学者の主張していた (10) を激しく攻撃し、これにより岡田啓介内閣を倒閣して、天皇主権をより強化する新たな体制への変革をめざす動きを示した。岡田啓介首相は、立憲政治を守っていくべきであるとの立場から、このような国家主義的勢力の攻勢をかわすべく苦慮したが、1935年8月と10月に2回にわたって「国体明徴」声明を発表し、 (10) を否認するなどの譲歩を余儀なくされた。

- (1) 下線部 (1) の生糸の輸出に関して、1929年に始まる世界恐慌時に日本の生糸の最大の輸出先であった国名を答えなさい。
- (2) (2) にあてはまる人物名を答えなさい。
- (3) (3) は、近代では1885年に内閣制度とともに発足した政府の官職であり、天皇を補佐する役割を果たした。この官職の名称を答えなさい。
- (4) (4) にあてはまる金融機関の名称を答えなさい。
- (5) 下線部 (5) の『時事新報』を1882年に創刊し、1884年の甲申事変で日清間の緊張が高まった時に、同誌で強硬に主戦論を唱え、のちに日清戦争を強力に支持した人物名を答えなさい。
- (6) 下線部 (6) の大蔵大臣の人物名を答えなさい。この人物は、内閣総辞職とともにいったん大蔵大臣を退くが、のちに岡田啓介内閣のもとで再び大蔵大臣と

なった。

- (7) 下線部 (7) に関連して、次の問いに答えなさい。

下線部 (7) の人物は、天皇中心の政治体制を目指していたものの、1940年に近衛文麿が推進した新体制運動に対しては批判的であり、一国一党の独裁政権となるとして、強く反発した。こうした反発を受けて、近衛新体制運動の結果として成立した団体は、政党ではなく、治安警察法上の「公事結社」と認定されて政治活動を原則的に禁止された。この団体の名称を漢字5文字で答えなさい。

- (8) は、第二次世界大戦後、自由民主党の初代総裁となった人物である。 にあてはまる人物名を答えなさい。

- (9) 下線部 (9) の人物から久原鉦業などの企業経営を引き継いだ鮎川義介は、のちに持株会社の日本産業を設立、傘下に自動車・電機メーカーなどを収める企業群を形成し、1930年代に急速に成長させた。同時期には、このほかに化学メーカーなどを中心とした企業群の発展が顕著であった。当時、これらの企業群を総称して何と呼ばれたか。漢字4文字で答えなさい。

- (10) にあてはまる憲法学説の名称を漢字5文字で答えなさい。